黙示録5章9－10節 「世界を見上げる宣教」

1A あらゆる国から贖われる神

1B 主の再臨前の姿 黙示録

1C 引き上げられた教会 5 章

2C 反抗する世界 10,11,13 章

3C 福音を伝える御使い 14 章

2B 太初からのご計画

1C バベルの塔事件後のアブラハム約束 創世記 12 章

2C ダビデ詩篇

3C イザヤ預言

3B 福音によって啓示されるご計画

1C あらゆる民への福音

2C サマリアに伝えられた福音

3C コリネリウス事件

4C エルサレム会議

5C マケドニア人の呼びかけ

2A 民族主義と偽りの一致

1B 民は民、国は国に対抗

2B キリストにある一致、教会、そして世界

3B 偽りの一致

1C 神を思わず、人を思う誘惑

2C バベルの塔

3C 荒野のサタンの誘惑

4C 獣の国

3A 天のエルサレム

本文

こんばんは。今晩分かち合いたい御言葉は、初めに、黙示録 5 章 9-10 節です。「9 彼らは新しい歌を歌った。「あなたは、巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です。あなたは屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、10 私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです。」ここの御言葉から、聖書のいろいろな箇所を縦横無尽に取り組んでいきたいと思います。マラナサ・バイブル・フェローシップということで、主の来られることを待ち望むという期待と希望を抱きながら待っています。けれども、主が来られることだけを考えては神のご計画の中では片手落ちです。その来られるに

あたって行われる、主の目的があります。それが今、読んだところに関わることです。それは、「あらゆる部族、あらゆる言語、あらゆる民族、あらゆる国民の中から、イエスの血によって神のために贖う」ということです。つまり、世界宣教であります。主イエスは、ご自身が地上に戻って来られる前に、あらゆる人々をご自分に招き入れたいと願われており、再臨の時が近づくにつれて、福音が世界の国々に届けられるというご計画が、なお一層のこと顕著になるということです。

終わりの日は、困難な時代になると聖書には言われています。「Ⅱテモ 3:1-5 終わりの日には困難な時代が来ることを、承知していなさい。そのときに人々は、自分だけを愛し、金銭を愛し、大言壮語し、高ぶり、神を冒涜し、両親に従わず、恩知らずで、汚れた者になります。また、情け知らずで、人と和解せず、中傷し、自制できず、粗野で、善を好まない者になり、人を裏切り、向こう見ずで、思い上がり、神よりも快楽を愛する者になり、見かけは敬虔であっても、敬虔の力を否定する者になります。こういう人たちを避けなさい。」私たちはニュースで、いろいろな悪い話を聞きます。イスラム教過激派が入ってきているわけではないのに、アニメ制作会社に放火されて、まるでテロ事件のようなことが起こりました。人の自己愛が無制限に発散されるようになってきています。そしてさらに困難なのは、「見かけは敬虔であっても、敬虔の力を否定する者」とあるのです。キリスト教の世界から、敬虔を否定する者たちが現れるということです。教会の世界で起こるあらゆる事件、虐待やカルト化など、とんでもないことばかりです。

そして教会への迫害は、今世紀になって史上最多と呼ばれています。一億人が迫害を受けていて、殉教者も年々、倍増しています。私たちの隣国である北朝鮮は十数年、迫害のひどさでワースト1でありますし、中国もここ二年間で、酷くなりました。中国は、顔認証技術も発達しているので、先端技術による監視が強まっているのがこの頃の状況です。

けれども、そういった困難があるのなら、キリスト者の数、教会の数は減っているのか？ということになりますが、これが正反対なのです。中東では、激しく迫害されている国でイランがありますが、それはイスラム原理主義の国が興ったからです。そのイスラム革命は、1979 年です。当時はキリスト者は 500 名ぐらいしかいなかったのではないか？と言われていますが、今は、どんなに少なく見積もっても100万人はいます。中国は、共産党が政権を握った70年前は、50万人以下でした。けれども、二世代を経た今、イエス様への信仰は全人口の一割、1 億 3 千万人と言われています。迫害や反対が厳しければ、それだけ前進しているのです！これが、教会の歴史であり、使徒行伝の歴史でしたね。エルサレムからローマまで、迫害によって次の宣教地に導かれたのです。これは後でお話しします。

こうして、主は終わりの日に向って、人々をご自分のところに集めようとされています。そして再臨の時に、神の国を人々に受け継がせようとしておられるのです。「エペ 1:10-11 時が満ちて計画が実行に移され、天にあるものも地にあるものも、一切のものが、キリストにあって、一つに集

められることです。またキリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです。」私たちは今、そのイエス様が一つに集めようとされているご計画の渦中にいるのです。

1A　あらゆる国から贖われる神

1B　主の再臨前の姿　黙示録

1C　引き上げられた教会　5 章

今、本文を読みました 5 章の背景をご説明します。主は、パトモス島に流刑になっていたヨハネに、ご自身を栄光の姿で現されました。そして、小アジアにある七つの教会に語られました。そしてヨハネを天に引き上げられます。そこでヨハネは、父なる神の御座の幻を見ました。そして神が、巻物を手に携えておられました。それは、土地の権利証です。世界の土地の権利を持っている証書です。それが巻物であって、封印されていました。封印を解く資格のある者はだれかと御使いが聞くと、誰もいませんでした。それは、アダムが罪を犯した時から、土地が呪われたものとなったと言われるその世界です。誰かがそれを良くしようとしても、決して良くならない。だれもアダムの罪の結果によって呪われてしまったものを、神のものに取り戻す、回復することはできないので、ヨハネはむせび泣きました。

ところがそこに、屠られたと見える子羊が立っていました。そうです、イエス・キリストです。イエス様が世界の人々のために死なれて、そして甦ってくださいました！この方が巻物を受け取ったので、封印を解くことができ、地上は贖われます！そして、私たちは、その収穫の初穂なのです。贖われた者たちがここにいて、そして、後にキリストが来られたら復活し、あるいは生きているのであれば、一瞬にして変えられ、そして地上に主が戻って来られて世界を回復されます！そこで、その贖われた者たちが、天において子羊に賛美の歌をささげているのです。つまり、ここには天に引き上げられている、世界にあらゆるところからの聖徒たち、教会の姿を示しています！私たちは、いつも日本語で礼拝を献げていますね。国際教会であっても、せいぜい二カ国語です。けれども、私たちが天において、永遠に献げる賛美は、なんとあらゆる言語によるものなのです！

ここから見えてきたでしょうか？主は、世界を相手にしておられるのです。世界あっての救いの完成です。母国語が通じる日本だけではなく、福音が伝えられていないあらゆるところに隅々まで、福音が広がることが神の御心なのです。

2C　反抗する世界　10,11,13 章

しかし、サタンはその神の働きを妨げようとしています。ヨハネは預言をしなければいけないと、御使いに語られ、その時に、黙示録 10 章ですが、「あなたはもう一度、多くの民族、国民、言語、王たちについて預言しなければならない。」同じような表現が出て来ますね、多くの民族、国民、言語、王たちと言っています。そして、11 章に、二人の証人がエルサレムに現れます。その時にエル

サレムが堕落していたんですね。けれども、底知れぬ所から獣が現れて、二人を殺してしまいます。その時、二人を世界中の人たちが喜ぶんですね。ですから、世界は神に逆らい、神を憎むようになっていきます。

そして 13 章には、その獣が再び現れます。なんと竜である悪魔が、「自分の力と自分の王座と大きな権威を与えた。」とあります。それで獣の国が始まります。そこにも、「13:7（獣が）あらゆる部族、民族、言語、国民を支配する権威を与えた。」とあります。この時代はまだ来ていませんが、けれども、世界中に、キリスト教を敵視する動きが起こっていますね。イスラム教の過激派から、同性婚の合法化、いろいろな形でキリストに従わせない考えが広まっています。

3C 福音を伝える御使い 14 章

しかし、主はそれでもあきらめないのです。獣の国で、獣に従わない者たちはことごとく殺されるので、残された者たち、神を敬う人たちはもういなくなっています。ところが主は天使を使われます。そしてこう書いてあります。「14:6-7 また私は、もう一人の御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は地に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、言語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。彼は大声で言った。「神を恐れよ。神に栄光を帰せよ。神のさばきの時が来たからだ。天と地と海と水の源を創造した方を礼拝せよ。」」このようにして、なんと「あらゆる国民、部族、言語、民族に宣べ伝えるために」御使いが用いられるのです。

2B 太初からのご計画

1C バベルの塔事件後のアブラハム約束 創世記 12 章

これには、理由があります。主は、初めの時に既にこのことをご計画として持っておられたからです。初めから民族は別たれていたのでしょうか？違いますね、一つの民、一つの言葉でした。それが別たれたのはバベルの塔で、人々が自分たちの名を残すために天に届く塔を建てようとしたからです。それで主は、彼らの言葉をばらばらにして、世界に散らせるようにしました。この時からです、あらゆる国語、あらゆる民族、あらゆる部族が始まったのは。そして、その中から神はウルという町に住むアブラハムを呼ばれて、主の示す地に行くように命じられました。そして言われました、「創 12:3 地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」主は、アブラハムの子孫によって国民を造られ、またアブラハムの子孫キリストによって、すべての部族が祝福されるように定められたのでした。

2C ダビデ詩篇

ですから、旧約聖書はイスラエル民族の書物だと言われますが、そうではありません。諸国、つまり、あらゆる国民が主を神としてほめたたえるという約束で満ちているのです。「詩 117:1 すべての国民よ。主をほめたたえよ。すべての国民よ　主をほめ歌え。」皆さんは、すべての国民が主をほめたたえるのを想像できますか？イスラエル旅行に行きますと、イエス様の園の墓にて、いろい

ろな国の旅行者に出会います。そしてそこで、それぞれの言語で主を賛美します。聞き覚えのあるものが多いです。ああ、これが、主が御心としておられるのだと思いました。だから、私たちは他国の人々にも心を広げます。自分の話したこともない言語を話す人々にも近づきます。

3C イザヤ預言

そして、イザヤ書には主の良き知らせを運ぶ足のことについての預言であるとか、福音宣教が書かれています。「島々もその（主のしもべ）の教えを待ち望む。」新約聖書ですと、使徒の働きで「地の果て」という言葉が出て来ますが、島々も同じような意味です。ここでは、地中海の島々のことをイザヤは想像していたでしょうが、実は世界中のことを、島々に至るまでの果てを意味しています。そこにまで宣べ伝えるのです。去年 11 月、ジョン・アレン・チャウさんという若者が、インドの孤島の未開人に福音を伝えようとしたところ、殺害されてしまいました。彼は無謀だと非難されましたが、なんと彼は中学生ぐらいの時から願いを与えられ、祈り、そして高校生、大学生で、そのセンチネル族のところに行くための、言葉も含めて、医療関係の技術も、あらゆることを準備して行きました。それは、島々もみな、主のしもべの教えを待ち望むというような御言葉があるからです。

3B 福音によって啓示されるご計画

1C あらゆる民への福音

そして、私たちは福音書の中にも、諸国の民への宣教の道が示されています。イエス様は、イスラエルの失われた羊のところに来ましたが、それでも百人隊長のしもべ、カナン人の女など、異邦人にも働きを行われました。そして甦られてからは、あの有名な大宣教命令を行われたのです。すべての国民を弟子にしなさいという命令です。これが、アブラハムへの約束の成就へとなっています。

2C サマリアに伝えられた福音

イエス様はサマリアにも行かれました。井戸で女にあって、彼女がイエスをメシアとして受け入れ、人々に話しました。使徒の働き 1 章 8 節で、大宣教命令を守るための力が与えられる約束が与えられました。「1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」地の果てまでの証人、とあります。

それで、ここにあるようにユダヤだけでなく、サマリアにも宣べ伝えます。ピリポがそこまで行き、サマリア人に宣べ伝え、多くがイエスを信じました。ここはすごいことなのです、彼らとユダヤ人は敵対関係にあったからです。歴史的に、サマリア人はユダヤ人と異邦人の混血で、ユダヤ教に異教を混ぜた宗教を持ち初めました。そして、帰還したユダヤ人はサマリア人と共に神殿を建てるのを拒みました。そういったいろいろな理由と経緯があって、憎しみ合っていました。どうですか、私たちにとって、このような近いけれども敵対している人々がいますね？韓国であったり、中国もそう

でしょう。しかし、主は、あらゆる国々、あらゆる言語、あらゆる部族の人々がキリストにある祝福、罪の赦しと御霊が与えられるようにされたのです。ですから、そういった敵対意識は取り除かないといけません。そこでエペソ 2 章があります。キリストが私たちの平和であり、二つのものを一つにして、隔ての壁を打ち壊します。

3C コリネリウス事件

そして、地の果ての一歩を踏み出したのは、カイサリアにいたコルネリウスです。百人隊長ですが、ユダヤ人はまずもって、異邦人はメシアについては眼中にありませんでした。メシアはユダヤ人のものと思っていました。そして、食事はいっしょにしないし、家にも生きません。汚れると思っているからです。けれども主が行きなさいと幻の中で命じられました。そしてペテロがコルネリウスの家族のところで福音を語ると、そこで聖霊のバプテスマが与えられたのです。聞いていた人々が異言や預言を語るようになりました。私たちにとっては、名も聞いたことのない人々のために福音を伝えるということになります。

4C エルサレム会議

けれども、この大きな変化に一部のユダヤ人は付いていけませんでした。救われるのは、神の国に入れるのは、異邦人はユダヤ教に改宗しなければならないと信じていたからです。それで、異邦人に福音を宣べ伝えていたパウロとバルナバと激しい対立が起こり、エルサレムに皆が集まって、議論しました。その会議によって、確かに異邦人はただ主を信じる信仰で清められる、それで異邦人にも救いが与えられることを公にも了承したのです。

5C マケドニア人の呼びかけ

そしてパウロは、小アジアで宣教をしていたのですが、なんと御霊が禁じたとあります。「16:6,7,9 それから彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、フリュギア・ガラテヤの地方を通って行った。こうしてミシアの近くまで来たとき、ビティニアに進もうとしたが、イエスの御霊がそれを許されなかった。・・・9 その夜、パウロは幻を見た。一人のマケドニア人が立って、「マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください」と懇願するのであった。」異邦人宣教をしていたパウロとて、実は自分の出身地タルソのある小アジアからは出たいと思いませんでした。ところが、ギリシアの一部であるマケドニアにいる人の夢の中で呼ばれて、それでギリシアへと向かったのです。

こうやって、使徒たちでさえが、自分のすることとは不自然なことを御霊が導かれるのです。私の知り合いの宣教師の多くは、「日本に行けと主に語られた時に、地図の中でどこら辺にあるか分からない状態だった。」と言います。アメリカ人は結構、地理に音痴だからということは言えますが、それでも、自分が「えっ？」というようなところに導かれます。

2A　民族主義と偽りの一致

ところで、冒頭で、私たちは終わりの日に見ることのできる兆候があることをお話ししました。世がますます暗くなる時に、キリスト者はますます輝くように召されています。

1B　民は民、国は国に対抗

世の終わりの徴として、民族主義があります。「マタ 24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起こります。」民族が民族の対立、国が国に敵対するという時代です。何か聞き覚えありますね、まさに今ですね。昔から続いていますが、近代に入ってから世界規模でこの戦いが起こりました。第一次と第二次の世界大戦です。そして、冷戦が戦後に始まり、ソ連が崩壊してから、アメリカ一極集中のグローバル時代にはいります。けれども、9・11でイスラム過激派のジェット機のテロリズムから、憎悪の連鎖が始まりました。アメリカがこれまでで最も長い戦争を、テロ戦争を続けています。アフガニスタンで行なっています。そして、アラブの春が来ました。それで民主化にはならず、イスラム過激主義がはびこりました。各地で内戦が起こり、シリア内戦が最もひどかったです。そして、イスラム国が台頭しました。そして、イスラム国は収束に向かってはいるものの、浮かび上がってきたのは地域大国イランとサウジアラビアの確執です。そして地球規模では、ロシアと中国が台頭しています。イランは核兵器開発を目論み、イスラエルは大きな脅威にさらされています。

そして、世界のいろいろな国が自分たちの国を守ろうとしてきて、民族主義が強まりました。日本も例外ではありませんね、韓国に対抗するための気持ちが日本人の中でも固くなっています。韓国は言わずもがなで、中国も愛国主義が強いです。

2B　キリストにある一致、教会、そして世界

こういう時に、最も強力な勢力はキリスト者たちなのです。そのような対立を完全に素通りして、とてつもない強い、堅い結びつきで諸民族を一つにするのが、まさにこれまで話してきた「キリストの福音」です。キリストが死なれ、そしてよみがえられ、また戻ってきてくださる、この福音を第一とするとき、私たちは民族の違いなどまったく意味を無くするようになります。

まず、キリストの十二弟子を考えていただきたいです。その中に取税人マタイと、熱心党員シモンがいます（マタイ 10:3-4）。熱心党とはユダヤ教の一派で、武力闘争によって神の国を建てようとする民族主義者たちです。事実、ユダヤ人によるローマ反乱は熱心党員によって主導され、紀元 70 年に、ローマによってエルサレムが滅んだのは、彼らのせいによるものです。対して取税人は、ローマの犬です。当時、ユダヤ人はローマへの従属を表す納税をひどく嫌いました。それをローマに代わって徴収していたのがユダヤの取税人です。彼らは遊女と同じようにユダヤ人に嫌われていました。

この二人がいつも生活を共にする仲間の中にいたのです。なぜそんなことが可能なのか？イエス・キリストが真ん中におられたからです。主ともにいることが彼らの中心であり、主の教えを守り行なうことが彼らの思いを捕え、その中においてはシモンもマタイも愛する兄弟なのです。私たちは、このような形の宣教を求めるとよいでしょう。自分が福音を携えて、未開の人に教えるのだというのも、一つの宣教かもしれません。けれども、今は、そこに救われる人を神が備えておられて、共に福音にあずかっていくということです。すでにいるキリスト者たちと交わることによって、そして共同の福音宣教ができます。私は宣教地で、そのような働きをしました。現地の人と共に、まだ救われていない人たちのために働くのです。

3B　偽りの一致

ここで、とても大事なこと、注意しなければいけないことを話します。終わりの日に生きていると申し上げました。困難な時になると言いました。私たちはキリストの内に留まって、しっかりと立っていなければいけませんが、異なる力が強く働き、私たちは惑わしを受けます。

1C　神を思わず、人を思う誘惑

イエス様が、ピリポ・カイサリアで弟子たちに、「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」と尋ねたら、ペテロが、「あなたはキリストです。」と答えました。そして、イエス様は、ご自身が多くの苦しみを受け、宗教指導者たちに捨てられて、殺されて、三日目によみがえられることを語られました。そこで、ペテロが、「マルコ 8:32 イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。」とあります。なんと、主であるイエス様を弟子であるペテロが諫めたのです。当時、ローマ帝国を力で倒して、ユダヤ人のために神の国を立てられるのが、メシアの働きだとユダヤ人たちは信じていたからです。ローマに屈服して、屈辱に満ちた十字架にかかるなど、そんなことがあってはならない！と思ったのです。ペテロは本気でした。しかし、イエス様は言われました。「マルコ 8:33 下がれサタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」ペテロが、イエス様のことを思ってやったことは、実はサタンに感化されたことだったのです。彼は知らず知らずのうちに惑わされました。

イエス様ご自身が、ゲッセマネの園で苦しみ悶えながら祈られたことを思い出してください、ご自分の願いは、杯が取り去られることなのです。けれども、「マルコ 14:36 わたしの望ことではなく、あなたがお望みになることが行われますように。」と言われました。人の思いではなく、神の思いを選び取ることができるように祈られたのです。これは、とても勇気の要ることです。自分を捨て、日々十字架を背負い、そしてイエス様に従わなければできないことです。

2C　バベルの塔

けれども、キリストの十字架ではなく、自分たちで一致をしようとする強い力が働いています。そうした一致や平和は、キリストの国ではなくサタンの国です。先のバベルの塔は、どこかに自分の名が高められたいという欲望があります。そして天に届きたい、つまり神のようになりたいという欲

望があります。偶像礼拝の思いです。

3C　荒野のサタンの誘惑

イエス様が荒野で誘惑を受けられました。「4:8-9 悪魔はまた、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、こう言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。」これは、すぐに目的が達成できるという誘いです。イエス様は、世界をご自分のものにして、それで神の国を立てるために来られました。ところが、十字架の苦しみを通らないでそれを得られるように誘ったのです。私たちも絶えず、その誘いがあります。安易なところで一つになろうという動きです。

4C　獣の国

それで先ほど見た、獣の国です。獣の国では人々は刻印を押し、一つになることが出来ています。けれども、真実に神に生きようとする者はすぐに殺されます。売り買いもすることができません。この獣の国、反キリストの国に入る力は強く働いています。なので惑わされずに、自分の思いではなく、神の思いに満たされるように祈りましょう。

3A　天のエルサレム

最後は天のエルサレムです。イエス様が地上に再臨され、千年の間、神の国を統治され、それから最後の審判があります。天地は過ぎ去り、そして新天新地になります。そこで天からエルサレムが降りて来て、都が置かれます。そこにこう書いてあります。「黙 21:26 こうして人々は、諸国の民の栄光と誉れを都に携えて来ることになる。」最後の最後まで、諸国の民の存在があります。私たちが、もう一度確かめたらよいでしょう、ヨハネの 3 章 16 節です。「神は、実にその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」世は、世界のことです。世界を愛しておられる主です。私たちは、その全ての人を愛しておられるのだから、その最後の働きを行われているところに、入って行ってください。